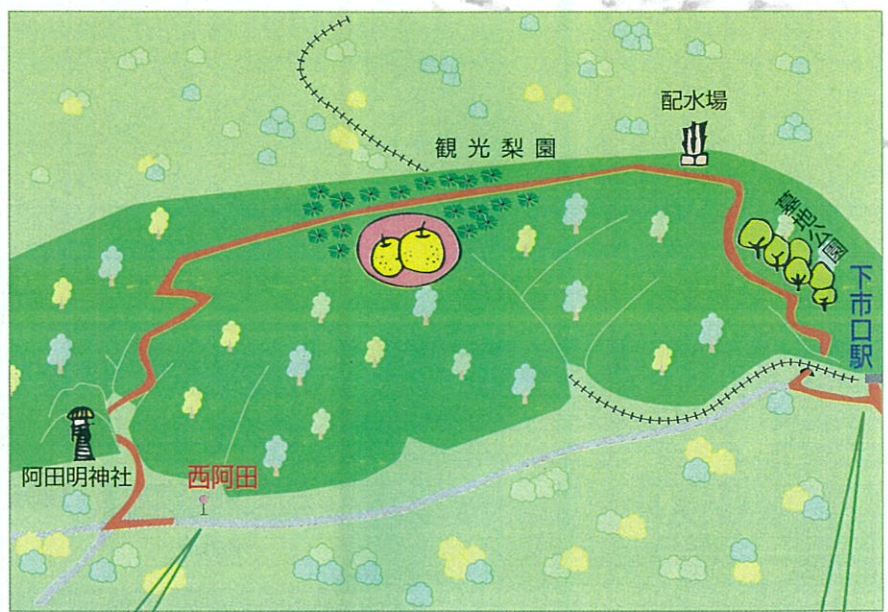


大淀フルーツの里を たずねるみち

沿線風景

二十世紀梨の生産で有名な大阿太の台地を縦断するコース。大淀町下湖の古い町並みを抜けると、やがて大阿太の台地の入口に至る。公園墓地や養護学校を過ぎ、台地を登りつめると、香梨台配水場(大淀町西部配水場の斬新なデザインが目に入る。このあたりから延々と梨畑の中を歩く。シーズン中には現地直売の露店が並ぶ。薬水トンネルの上を過ぎるあたりから高原状になり、両側に広大な梨畑が広がる。梨畑を過ぎるあたりから、五條市大野新田へ向けて道が下り始める。ここからは、目の前に金剛山や葛城山の眺望が開ける。大野新田からは、牧場や畑の中を西阿田町へと下ってゆく。



沿線風景



二十世紀梨
四月、雪のような花を咲かせてから初秋に実りを迎えるまで大切に育てられます。

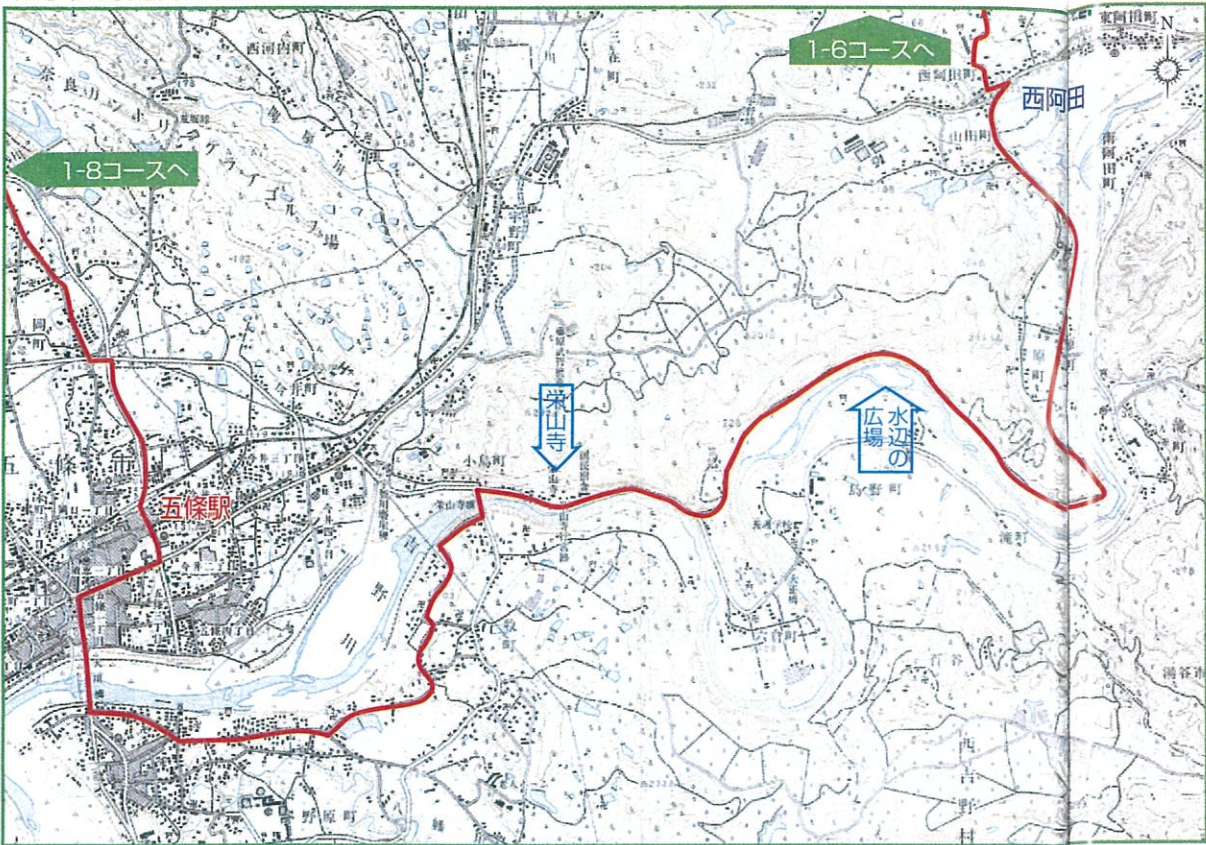
奈良県コースの所要時間	起点までの最寄駅と所要時間
約2時間40分	近畿日本鉄道 吉野線 「下市口駅」
奈良県コースの距離	終点
8.2km	奈良交通バス「西阿田」バス停 から「下市口」駅まで13分

コースガイド

大阿太丘陵の梨園は、明治20年頃奥徳平という人によって始められたもので、梨の品種は二十世紀や幸水。出荷量は奈良県下No.1で、大淀町の特産として有名である。開花は4月。果実が熟すのは8月中旬～10月で、この頃には梨狩りを楽しむ観光客で賑わう。ナシの他にも、ブドウ(巨峰)やリンゴ等が栽培されている。



●印はバス停



沿線風景



栄山寺(史跡指定)

五條市小島町。寺の創建は遠く養老3年(719年)藤原南家初代監智廣呂の開創にかり、その菩提寺として変遷幾層をへし、今にその法灯を伝える南和の名所である。

奈良県コースの所要時間

約3時間30分

起点までの最寄駅と所要時間

奈良交通バス 近鉄吉野線「下市口」駅から「西阿田」バス停まで13分

奈良県コースの距離

10.5km

終点

JR和歌山線「五條」駅

コースガイド

芝崎の奇岩はきれいに園地整備されているが、対岸の県道からでないといけない。

水辺の広場は市営スポーツ公園。吉野川の展望が良い。

栄山寺は、養老3年(719年)の創建。国宝・八角円堂や小野道風書銘の梵鐘等、数々の文化財を蔵している。

金剛寺は、平安朝の平重盛の創建と伝えられる。2,000平方メートルの牡丹園に、100種1,500株のボタン。他にもドイツアヤメ、ツツジ、シヤクナゲ、秋にはキクが咲く。

栗山家住宅は、江戸時代の商家の町並みを残す五條新町の東口にあり、慶長12年(1607年)の棟札銘がある民家。

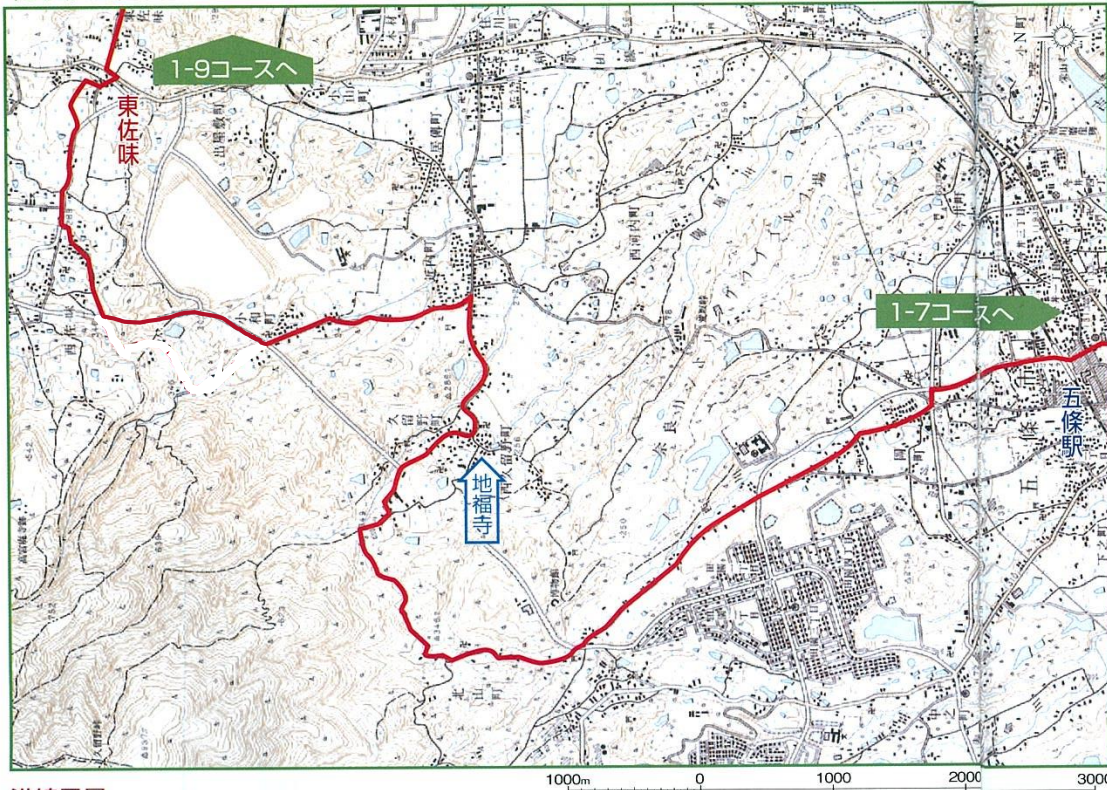
桜井寺は、文久3年(1863年)8月、天誅組挙兵に当たって本陣となった寺。

沿線風景



吉野川右岸にのぞむ天平の香り高い栄山寺を中心に、ボタンの寺として有名な金剛寺、天誅組の本陣となった桜井寺を経てJR五條駅に至るコース。西阿田町から阿陀比売神社を経て吉野川右岸に至ると、芝崎の奇岩が木の間にこしに覗かれる。途中水辺の広場を経て栄山寺に着く。栄山寺は、深い森をバックに、八角円堂を始め数々の文化財をもつ名刹。左岸に渡ると、神社仏閣の多い田園の中に花の古寺・金剛寺。4~5月には、ボタンやアヤメなどが楽しめる。大川橋で再び吉野川を渡り、左(西)に重文の栗山家住宅を見ながら、五條市街地の中心部にある明治維新の先駆けとなる、天誅組の本陣となった桜井寺に着く。この寺も、シタレザクラやカエデが美しい。古い町家の並ぶ狭い道を通って五條駅に至る。





沿線風景



市立五條文化博物館

五條市の北部、北山町の標高300mの丘陵上にあり、世界的建築家安藤忠雄氏の設計による建物は、鉄筋コンクリート3層構造で周囲の景観に調和するよう半地下式に建てられている。

奈良県コースの所要時間

約5時間

起点までの最寄駅と所要時間

JR和歌山線「五條」駅

奈良県コースの距離

9.9km

終点

奈良交通バス「東佐味」バス停から
近鉄御所線「近鉄御所」駅まで16分

コースガイド

五條市立五條文化博物館は、五條市にかかわる歴史と文化を紹介する博物館で、円柱形の3階建建物。展示物や映像で、面白い体験を交えながら学べるようになっている。



草谷寺は、重文の木造仏像3体を蔵する方形造の寺院。仏像は収蔵庫に安置している。



五條市の各地に御霊神社がある。奈良時代末期、皇位継承にからむ暗闘に巻き込まれ、非業の死をとげた井上皇后と他戸皇太子の御霊をまつている。



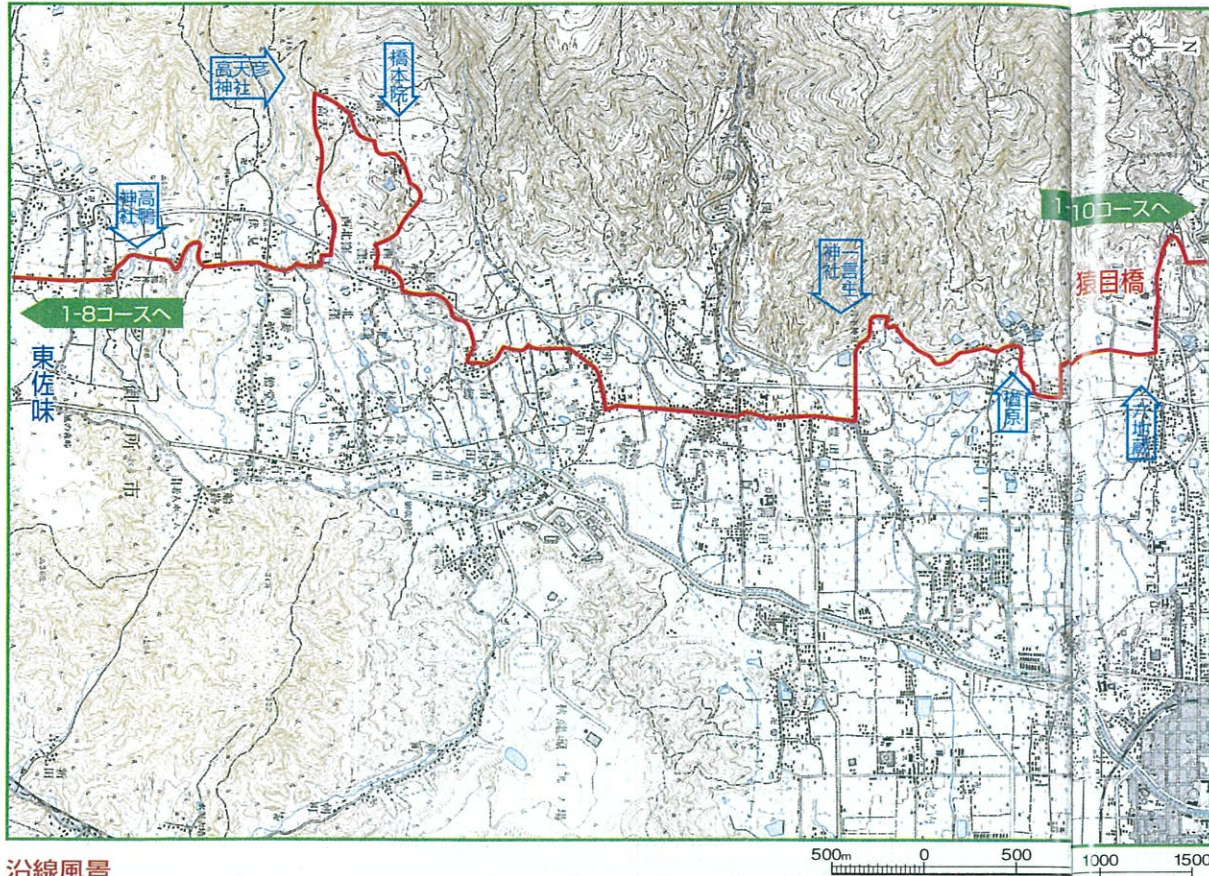
東佐味にある弥勒は、真言宗高野の未寺。本尊の弥勒菩薩像を始め、多くのすくれた仏を蔵している。

金剛山ろく文化をめぐるみち

沿線風景

金剛山南麓の山裾をたどり、数々の神社仏閣をめぐるながら、次の葛城古道につながるコース。五條の中心部から、金剛山を見上げるながら郊外の田園風景の中を北上する。左(西)に南大和ネオポリスの住宅団地があり、団地への広い道路と交差する。さらに田園を過ぎると、右側に五條市立文化博物館が見える。道は、ここから小さな谷に入り、やがて草谷寺に着く。草谷寺の上で道は、中葛城山の南に伸びる笹尾尾根の中間を横断した後、久留野町へと下ってゆく。久留野の集落には御霊神社上社、地福寺、御霊神社八幡社があり、さらに歩くと近内の集落に着く。近内町からは再び北へ登り返し、小和町の鳳凰寺や地藏尊を経て西佐味に至る。西佐味から東佐味へは、水田地帯の中を進む。





沿線風景



歴史文化館

葛城の道のすばらしさをより多くの人に知ってもらおうと同時に、実際にこの道を行くときの手引きとなることを目的として開館され、また、この館は、葛城の道の優れた歴史や自然の財産を、地域の人たちとともに守っていくための拠点としても機能しています。

奈良県コースの所要時間

約3時間40分

奈良県コースの距離

11.2km

起点までの最寄駅と所要時間

奈良交通バス 近鉄御所線「近鉄御所」駅から「東佐味」バス停まで16分

終点

奈良交通バス「猿目橋」バス停から近鉄御所線「近鉄御所」駅まで13分

コースガイド

高鴨神社は、室町時代の代表的建築で、国指定重文。京都の上賀茂神社や下鴨神社の本家に当たる。4~5月に咲く2千鉢の日本サクラソウはみごと。

高天彦神社は、葛城一族の祖神をまつおごそかな雰囲気のある神社。同じ高天地区にある橋本院は、真言宗高野山の末寺で、建物は普通の寺とはかなり違った造りになっている。

極楽寺は、10世紀に興福寺の名僧一和僧が開いた寺。

中村邸は、御所市内最古の民家建築で、江戸時代初期の造り。

一言主神社は、願いを一言だけ聞いてくれる神として親しまれている。境内に土蜘蛛塚がある。

九品寺は、境内や裏山に数多くの石仏がある。南北朝の頃、地元の人々が供養のため造らしたものと伝えられている。

葛城古道をあるくみち

沿線風景

奈良盆地の南西の隅、葛城川に沿った山すそのどよやかな農村風景の中をたどるコース。古代(6世紀以前)に勢力を誇っていた葛城や鴨族の根拠地で、歴史的に貴重な遺跡や、由緒ある神社・仏閣が多い。

コースの途中にある高天の集落は、説に天孫降臨神話の舞台とされ、金剛山の東斜面にあつて、コースの中では段高い位置にある。高天彦神社の参道両脇には、樹齢数百年の老杉が並ぶほか、重厚な門構えの民家もある。

一言主神社の大イチョウも、樹高二十五メートル、幹まわり三百八十センチの巨木で、秋の黄葉はみごとである。

